

平成30年10月28日執行

福島県知事選挙選挙公報

福島県選挙管理委員会

◆主たる経歴
 ◆生年月日 昭和36年10月26日生
 ◆学歴 東京大学経済学部卒
 ◆経歴 昭和61年4月 自治省入省
 平成13年1月 総務省自治財政局
 平成13年4月 福島県生活環境部長
 平成14年4月 福島県生活環境部長
 平成16年11月 福島県企画調整部長
 平成22年12月 福島県副知事(二期)
 平成26年11月 福島県知事(一期)

みんなでチャレンジ! 新生がくしま

原子力災害からの復興・再生!

- 原子力災害により避難指示が出された地域の復興を進めます。
- 福島復興の要=福島復興再生特別措置法を最大限に活用し制度・財源の確保を国と交渉します。
- 被災者の実情に応じた支援による生活・生業の再生を進めます。
- 福島イノベーション・コースト構想をさらに進化させます。

安全・安心・活力ある地域社会を創る!

- 誰もが生涯を通じて文化・スポーツに親しめる健康長寿のふくしまを創ります。
- 高齢者、障がいのある方、誰もが暮らしやすいふくしまを創ります。
- 市町村を広域自治体の県がしっかりとサポートします。

日本一の子育て・教育環境を創る!

- 県民の力をふくしまの力を結集し子育てを応援します。
- 18歳以下の医療費無料化を維持、困難な課題にも現場主義で積極的に取り組みます。
- 食を通じた子どもと地域の交流を進めます。
- 本物で学べるふくしまづくりを進めます。

強い農林水産業の再生を進める!

- 国内外でのトップセールスなど風評払拭に全力を尽くします。
- 地域を支える農業、持続可能な林業、育てる水産業を作りあげ、おいしい、健康にもやさしい農林水産物の供給地を目指します。
- 福島の農林水産業を次の世代につなげます。

8つの基本政策

活力・発展を続ける商工業を創る!

- 販路開拓や人材育成、様々な産業との連携など中小企業支援を進めます。
- 福島が誇る地域産業の事業承継を進めます。
- 商業とまちづくりの連動や商工業の次世代の担い手の育成にもしっかりと取り組みます。

全ての資源を観光につなげ交流増大を進める!

- 環境との共生を図り何度でも訪れたいふくしまを創ります。
- 学びの旅を進め「世界を感じるふくしま」を目指します。
- SNSの活用や受入態勢づくりを進め、外国人観光客(インバウンド)を増加させます。

産業の交流・連携で福島の優位性を高める!

- ビジネスチャンスにあふれる福島づくりを進めます。
- 医療やロボット、再生可能エネルギーなどの産業集積や新産業の創出、新技術の創造を、研究開発拠点を活かしながら進めます。
- 社会課題解決型ビジネスを応援します。

内外を結び飛躍に向かう県土基盤づくりを進める!

- 防災力も視野に入れインフラ整備を進めます。
- 相馬福島道路や会津縦貫道など高速交通体系やふくしま復興再生道路など、バランスのとれた道路整備を進めます。
- 常磐線、只見線の復旧・利活用、福島空港路線の充実強化、小名浜港・相馬港の利活用を進めます。

県政運営の5つの基本方針

- ◆県全体を元気に! 原子力災害からの復興をさらに加速。
- ◆市町村とともに! 現場主義で「地方創生・人口減少対策」を推進。
- ◆ふくしまプライド。福島の宝を最大限に活かし、新たな魅力を創る。
- ◆「福島の将来を共有。豊かで住みやすく希望が持てるふくしまを創る。」
- ◆「縁に感謝」ふくしまの今を伝える。

私の決意

未曾有の複合災害から7年半。復興の光が明るさを増してまいりました。福島県の「誇り」を引き継いでくれた先人の皆さん、難局にも復興に向けて共に力を合わせていただいている県民の皆さん、福島に思いを寄せていただいている国内外の皆さんへの「感謝」ありがとうの思いを胸に、使命感、情熱、行動力を持って、復興と地方創生を前へと進め、福島の未来を切り拓いてまいりたいと覚悟です。



無所属
内堀まさお
 54才

「ふくしまの未来を切り拓く!」

福島から原発ゼロを発信 県民の声と力が生きる復興を

国や東電にハッキリものを言う県政に!

原発ゼロ

原発ゼロを福島から発信します。県民の暮らし、生業の再建に寄り添う復興を進めます。完全賠償をもとめます

汚染水

福島第一原発の放射能汚染水の海洋放出にキッパリ反対。憲法9条改悪や消費税増税に反対

学校給食・教育

学校給食の無償化は県予算(通常ベース)約1%の80億円でできます。県立高校も含め30人学級に。保育園の待機児童をなくし、返済不要の奨学金を拡充

農林水産・観光

戸別所得補償制度の廃止を補う県独自の農業支援制度を創設。農林水産業と観光業の復興を進めます

医療・介護

子ども医療費無料を継続し、健康診断の県補助を実施。特養ホーム増設と介護職員の処遇改善で待機者1万人を解消します

地域経済

中小企業を直接支援。最低賃金は時給1000円をめざします。経済も再生も地域循環型、住民参加型で持続可能な地域をつくります



タウンミーティングを毎月開催!

知事室直行のご意見箱を各地に

東日本大震災・原発事故から7年半あまり。福島県民は多くの困難のなかで必死にがんばってきました。一方で安倍政権は原発事故も被害も「終わったこと」にしようとしています。県民の苦しみは背景には国の悪政があると思います。いまの福島県政は県民の方を向いているでしょうか。放射能汚染水の海洋放出でも、憲法改悪や消費税増税でも、国や東京電力に県民の立場でハッキリものが言えない県政を変える必要があります。

3・11をきっかけに私たち福島県民はたくさんのご意見を学び、考え、行動するようになりました。私は、県民のみなさんのこの力を信じています。だからこそ私はトップダウンではなく、ボトムアップの県政をみなさんとともにつくりたい。一人一人の声と力が生きる県政を、一緒に実現しましょう。



無所属
町田かずし
 42歳

みんなで新しい県政をつくる会

プロフィール

●1976年10月16日埼玉生まれ。福島大学行政社会学部行政学専攻。しんぶん赤旗記者、日本共産党福島県書記長などを歴任し、現在は党福島県委員長、党准中央委員、みんなで新しい県政をつくる会共同代表、妻、長女(高1)、長男(小5)と福島市に在住。趣味は登山、スキー、スノーボード、読書、音楽。

●事務所 〒960-8141 福島市渡利字番匠町15の2
 ●電話 024(573)5518

○主な経歴

- 一、昭和五十七年 四月 東京ガス町田サービス店
- 二、平成十五年 四月 自然塾 白河乗馬学校自営



無所属
金山じゅん
 東京都出身 青山学院大卒 七十八歳

「戊辰戦争とは何だったのか」

概略すれば、利根川を挟んだ西と東の文化(心)の争いだった。即ち、東北7県(新潟を含む)を代表とする東は険しい高い山々に囲まれ海は荒れて良港が無く航海に便を成さず陸上の交通も船運に便利な大きな河川が無く隣国との交流も限らず、勢い経済生活は大地に頼るより他は無かった。土地という動かぬものがそこに住む人々の何代にも亘る生活を支配し必然と絆と言う心情が養われた。一方の西は瀬戸内海が航路の大動脈となり交通の道は自ずと外海に及びその為断続に国内外からの刺激を受け精神的にも情動的にも明るい活発な行動となり、それが閉じ籠るよりは外(侵略?)への発展進歩を習性とした方便を心情とする器用な生活を培った。これだけ聞くと東は頑迷固陋と蔑まれて負けたと言われるところだが、高い山々に囲まれた会津藩の藩校日新館では優れた人材育成を目的とした東北人としての持つべき心の基礎教育(十歳から)が行われていた。戦いに敗れたとは言えこの日新館から戊辰戦争後に活躍する優秀な人材を数多く世に送り出している。

①年長者の言ふことに背いてはなりません ②年長者には御辞儀をしなければなりません ③虚言を言ふ事はなりません ④卑怯な振舞をしてはなりません ⑤弱い者をいぢめるはなりません ⑥ならぬことは、ならぬものです

そこで、4つの公約

一、道州制導入を見越して、新たな平和都市《州都》を目指して福島県庁を郡山に移転します。

二、沖繩、東京、何れも東北の復活には欠かせない大切な同志、一層の友好を加速させます。特に、巨大地震が予測される東京については、先ず国の将来を担う若手エリート官僚に限って新幹線通勤費を全額補助し、更には首都圏の完全疎開(住居移転)を誘致します。

三、一強独裁の元、東北の心の拠り所である什の掟に悉く反する悪習を繰り返して、国を壊しかねない(森友・加計疑惑など) 旧薩長藩閥政治を東北の心《什の掟》を盾にして糾弾します。

四、早くに地方自治を掲げ東北の心「うつくしま」を目指すも志半ばで知事辞職に追い込まれた佐藤栄佐久元知事の再審請求、或いは恩赦をもって県政復職を強く要望します。

結論、未来を担う東北の子供たちが胸を張って世界に飛び立てよう東京生まれ東京育ちの私だからできるオール東京をバックに東北の心「うつくしま」を必ずや復活させます。加えて言えば、現職知事の出自は会津に攻め込んだ西の文化圏信濃。敵国の末裔に二期続けて県政を委ねる選択はあってはなりません。「ならぬことは、ならぬものです」。

第二項に加えて言えば、先の大戦時、福島県は東京の学童3万を超える疎開を受け入れ、自らは郡山の空襲で十五歳の白河高等女学校の動員学徒十四名を含む二百四十人の犠牲を出しながらも、疎開児童の全員を無事に帰郷させています。更に言えばこの児童を含めて、東京生まれの東京人は全て奥只見の水、猪苗代湖の水(電気)で育った「うつくしま」の子供なのです。沖繩については既にエーサーのルーツがいわき市と言う事もあって友好関係がありますが、島と山の違いはあるものと同じ平和志向の県民感情、県規模での政治連携を模索します。

以上の事全て、「為せば、成るものです」

平成30年10月28日執行 福島県知事選挙選挙公報

福島県選挙管理委員会

よそ者、ばか者、わか者目線で
いま、この福島県に足りないコトを創出する

『県民と共にポジティブに、チャレンジする【ふくしま】へ！
福島県を新しいライフスタイル実現の新天地に！』

- ・若き移住者が県知事となって自ら【トップセールス】で『福島県』を全世界に広報！
- ・未来の基幹産業を創造する、ICTやロボット等【ベンチャー起業家】をバックアップ支援！
- ・子育て世代や移住してくる若者が住み働きやすい【持続可能な環境】を59市町村で整備！
- ・過去に習慣に囚われず未来の為に【民間と連携して爆速】で行政運営を推進！
- ・学校教育の新しいカタチで【世界に通用する多様性を持った人材】を輩出する地へ！
- ・古き歴史・文化と新しい人や産業の共存。温故知新で【ふくしま】を再生！

壊してしまえ！公約その①

既存の常識や当たり前を疑い、価値観を壊す！

壊してしまえ！公約その②

過疎化の原因である、年長者主導による行政運営を壊す！

壊してしまえ！公約その③

若者が離れていく理由の一つ、新心のコトをやらない県政を壊す！

新
30歳
1988年生
(昭和63年)

50年、100年先の子どもたちに恥じない
希望と夢を持って誇れる福島県をみんなで作る
東京生まれ東京育ち郡山に移住した新世代
東京からやってきた福島県知事候補者

高橋 翔が福島県に移住してから感じた

福島県の歪みを一度キレイにぶっ壊します。

『悪』があるとすればそれは人の心。

妬み・嫉み・憎しみという日本人特有の感情が

福島県復興が遅れる原因です。

もう足の引っ張り合いはやめましょう！

活躍できる人に思う存分、その能力を発揮してもらいましょう！

他者の行動を評論してる暇があるなら自分のできる事を、

できる範囲で頑張れば、福島は他県からも世界から見ても

素晴らしい魅力溢れる土地になります！

壊してしまえ！公約その④

成長を止める県民のネガティブマインドを壊す！

壊してしまえ！公約その⑤

震災復興が遅れる原因である既得権益優遇体制を壊す！

壊してしまえ！公約その⑥

スマートでもオープンでもなげな福島県庁の在り方を壊す！

～高橋 翔の主な経歴～

2006年 3月 東京都立多摩工業高等学校 電気科 卒業

2012年 12月 6社のサラリーマン経験を経て東京にて起業

2014年 7月 株式会社アルストロメリア 設立 代表取締役 就任・現職

福島県出身の妻と、4歳長男と1歳長女の二児を現役子育て中。



たかはし
しょう

高橋 翔

10月28日(日) 福島県知事選挙

選挙権年齢は18歳以上です

投票日に
用事のある方は、**期日前投票制度**を利用しましょう!!

投票日前でも、直接投票箱に投票できます

(ただし、宣誓書の記載が必要となります。)

※選挙人名簿登録地以外の市町村で投票する場合は、従来の不在者投票となります。

期日前投票はこんなときにできます

仕事、学業、本人又は親族の
結婚式等の場合

※自宅で商店等を営んでる方も期
日前投票ができます。

※結婚式の仲人や司会、あるいは
葬式で手伝うことになっている
方も期日前投票ができます。



投票区の区域外に
出かけたりする場合

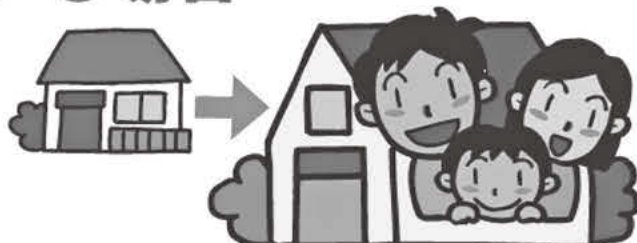
※家族旅行やショッピングに出かけ
る方も期日前投票ができます。



病気、けが、
出産等のため
歩行ができない
場合



引越し等をして他の市町村に
住んでいる場合



天災や悪天候
等で投票所に
到達すること
が難しい場合



大切な一票です。
忘れずに投票
しましょう!



詳しくは、県選挙管理委員会又は最寄りの市町村選挙管理委員会にお問い合わせください。